



ワンコイン
ブック

回 向

え

こ
う

四
衢
亮



東本願寺出版

回^え

向^{こう}

四^{よつ}

衢^{つじ}

亮^{あきら}

回向という言葉

「回向」^{えこう}の「回」は、めぐらすという意味があり、「向」はさし向けるという意味があります。辞書には、「自己の善行の結果である功德^{くどく}を他に回^{めぐ}らし向けること」とあります。つまり、自分が積み上げ蓄^{たくわ}えた善い行いの効果を、他の人に回して、その効果をもらった人が使うということでしょう。ですから、辞書には布施の功德を父母兄弟に回らし向けるという例があげられています。そう

したことから、一般的には、読経や布施などを行い死者の冥福めいふくを祈ること。供養くようという意味で使われています。

一般的な回向、供養のすがた

国語の教科書にも登場する「今は昔」で始まる『こん今昔物語』、芥川龍之介の「鼻」の題材になった「池尾いけおの禅珍ぜんちん内供ないくの鼻の語」など面白い話もありますが、その多くは仏教説話です。その中にこんな話があります。

大富豪の主人が、亡くなる前に、死んだ後、慣れ親しんだ従者と馬がいらないと心もとないので、従者や馬と一緒に連れて行く」と妻や子に遺言しました。その遺言に従い、主人が亡くなった後、従者も殺されて死後の世界に行っただけですが、四日経つと戻ってきたというのです。その従者が戻る前に、主人は言付けをしました。

それは「妻や子どもたちの追善の力によって、私は耐え難い苦しみを免れる^{まぬが}ことができているが、未だにすべての苦しみから免れていない。だからお前たちは速やか